

脱原発・放射能汚染を考える

東京電力はトリチウム汚染水の海洋投棄を行うな！

規制委員会・安倍政権一体となった策動に反対！

東京新聞の報道によると、政府が、福島第一原発にあるトリチウム汚染水のタンクを撤去するために、トリチウム汚染水を「処分」する方針を固めた。タンクを撤去して、跡地を1～3号機の溶融核燃料(デブリ)の保管場所とする予定である。「処分」方針としては、規制委や自民党は海洋放出を主張しており、その方向でのごり押しが進められようとしている。

トリチウム水の処分で公聴会を準備

経産省有識者小委員会は13日に、トリチウム汚染水の処理に関する意見を聞く公聴会を、8月30日に福島県富岡町、31日に郡山市と東京都で開くと決めた。

公聴会は公募で選んだ10～15人で、抽選に漏れた人は書面での意見も募集するとしている。小委員会は、海への放出、蒸発、電気分解など5つの方法を検討。規制委は「安全上問題ない、海洋放出すべき」との意見で、漁協関係者は海洋放出による「風評被害」を理由に反対の態度を表明している。

トリチウム水は処理できないだけで安全ではない

トリチウム水は、現在の処理装置で分離することが困難だというだけで安全ではない。「No163」でも特集しているが、トリチウムは通常の水素原子に置き換わって他の原子と結合する。体内にトリチウムが吸収され、体内の有機高分子の水素原子の代わりに結合すると、「有機結合型トリチウム」となり、遺伝情報を担うDNA内の水素と置き換わると、ガンや白血病など深刻な影響を与える。

北海道泊原発周辺のガン死亡率は北海道平均の1.4倍。佐賀玄海原発周辺では、白血病の死者数は全国平均の6倍以上。青森六ヶ所再処理工場付近の75歳以下のガン死亡率は、再処理試験開始以降、全国1位である。影響は「風評被害」でなく、深刻な健康被害だ。

この政府の対応に時期を合わせて、自民党東日本大震災復興加速化本部は12日、トリチウム水の処分を、先送りせずに進めるように政府に求める提言案を決めた。合わせてオリンピックまでに避難指示を解除する目標を明示。

沖縄辺野古県民集会(7/7)に2000人

「辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議」は7月7日、「ジュゴン・サンゴを守れ 土砂投入を許さない辺野古新基地建設断念を求める県民集会」を辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で開いた。沖縄防衛局は8月17日にも土砂投入を開始すると県に通知している。参加者らは「民意無視の基地建設をやめろ」などと抗議した。主催者発表で2千人が集まった。

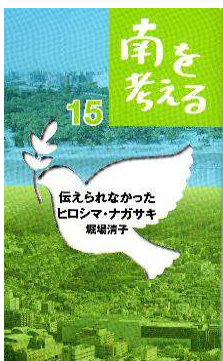
翁長知事は日本政府に対し「自然環境への配慮を欠き民意を無視したもので、到底容認できない。環境保全措置など法的に看過できない事態となれば、私は躊躇なく撤回を決断する」とメッセージを寄せた。

オール沖縄会議は8月11日、土砂投入阻止に向けた県民大会を那覇市の奥武山公園陸上競技場で開き、3万人以上の参加を目指す。東京・関西でも集会が開かれる。



ゲート前県民集会

「伝えられなかったヒロシマ・ナガサキ」— 堀場清子さんの「南を考える」⑮を読む



2015年12月に、鹿野政直・戸邊秀明・富山一郎・森宣雄の4氏が発表された「沖縄と日本の戦後史をめぐる菅官房長官の発言に抗議し、公正な歴史認識をともにつくることを呼びかける声明」が発表された。そしてそれ以降、ねばり強く続けられる賛同者の拡大と署名運動。それを支えられている堀場清子さんから、パンフレット「伝えられなかったヒロシマ・ナガサキ」の紹介をいただいた。2016年にイタリアの雑誌に投稿された文書が英語に翻訳され、そして今回、明治学院大学平和研究所から、「南を考える」⑮として発行された。

堀場さんは14歳の時に、広島県の爆心地から9キロの地で被曝し、祖父経営の今井医院で被爆者の治療に協力された。堀場さんが、その破壊のひどさ、被爆者の悲惨さ、そしてそれを報道・出版することが規制されたことを、米軍のプレスコードに隠蔽され、核兵器が「軍国主義を打倒した『勝利の兵器』』と持ち上げられ、核軍拡競争が繰り返されたことを、怒りをもって書かれている。

あの敗戦後の11日間に、被爆者たちの画像を、報道陣が結束して、外信・外電の開いていた窓に一気に注ぎ込んでいたなら・・・トルーマンの原爆投下声明で息を呑んでいた世界に、その凄惨な写真を流していれば、全世界が「核の悲惨さ」を、「核と生命の共存しえない」真理を、ただちに認識したであろうに、その行動は、人類最初の核攻撃を受けた日本人がなすべき「宿命」であり、バーチェットら、外国人特派員のスクープに待つまでもなく、日本の報道陣に与えられた人類的使命だった。だが、それは無念にも、果たされなかった・・・

強烈に意識に訴えるフィルムや、医学資料を略奪し、生々しい記事や写真を闇に葬ったアメリカと日本。双方の権力の隠ぺいにまかせた7年の歳月が、被爆者側に回復しえないダメージを与えた。隠ぺい者たちの目的は、十分な効果をあげたといえる。まさに被爆者は、アメリカと日本の権力によって、二度殺されたのだ。

NET から「南を考える」⑮を手に入れるには

「南を考える」で検索し、明治学院大学国際平和研究所のホームページが開ける。そこで「南を考える⑮」を選ぶ。

台湾第4原発から燃料棒搬出 (7/4) NAFJ

7月4日、台湾電力は、建設凍結中の台湾第4原発から燃料棒を搬出した。製造元の米国に輸送されると見られる。燃料棒を搬出して、稼働されないことが確定した。

1980年に計画以来38年後である。福島原発事故の発生を機に、台湾では反原発運動がたかまり、2014年には5万人が台北駅前を占拠し、当時の馬英九政権に「稼働・工事凍結」を宣言させた。蔡英文政権は反原発を進め、2017年1月には立法院で「原発を2025年までの完全停止する」法案が可決された。

米国、「プルトニウム」保有削減要求 (7/10) 日経

米国家安全保障会議(NSC)等が日本政府に「プルトニウムの適切な利用・管理」を要求し、特に保有量に上限を設けて、削減策を公開するように要求した。プルトニウムの製造は、核兵器に転用できるため世界で原則禁止されている。日本だけが、日米原子力協定で、プルトニウムを原発の燃料にリサイクルすることが認められている。しかしプルトニウムの蓄積量は増加し、国際社会から懸念が表明されていた。

福島除染に海外実習生を使用 (7/13) 朝日

法務省は13日、岩手、福島、千葉にある4社で、ベトナム人実習生などを、本人に説明せずに除染作業をさせ、国から支給される作業手当の一部しか支払っていないことを告発した。岩手の建設会社は、実習受入れ停止となった。1002社の実態調査中で、まだ182社しか検査は進められていない。

海外実習生については、厚労省の調査では、全国5966カ所の技能実習事業所の、実に70%の4226ヶ所で違法残業、安全違反、残業料不払い、最低賃金以下の給料などの不正が横行していることが明らかになっている。技能実習生とは名ばかりで、低賃金労働者の確保のために公然と利用されている。

7/27 朝鮮戦争休戦65周年 東アジアに平和を！キャンドル行動

7月27日は朝鮮戦争の休戦から65年の節目となる日である。朝鮮戦争では、3年間で500万人以上の死者と1000



万人以上の離散家族が生じたといわれている。日本は戦争特需によって、戦後復興を遂げ、再軍備を行った。今年の南北会談で発表された「板门店宣言」では、休戦協定を終戦協定にする意向が示された。日本の平和の在り方を見つめ直し、自らが平和創造の主人公になるためにも、集会に参加しよう。

7/29(日)大阪城こま犬追悼フィールドワーク 天津爆撃占領・こま犬略奪から81年

日本軍は1937年7月7日、盧溝橋事件を引き起こし全面的な中国侵略を開始した。12月13日には南京に侵攻し大虐殺を引き起こした。その途中、1937年7月29～30日にかけて日本軍は空爆を伴う攻撃で天津を占領した。そして天津市庁舎前にあったこま犬を略奪した。1984年に、こま犬返還に立ち上がった日本の市民の声に応えた中国政府より「友好の証」として大阪市に寄贈された。



大阪城のこま犬

今回、大阪城に残る数々の戦争遺産を訪ね、最後にこま犬前での追悼会に参加するフィールドワークが、大阪城狛犬会が主催して行われる。(資料代:500円)

日時:7月29日(日曜)午後3時集合
場所:ピースおおさか玄関前に集合し出発
講師:塚崎昌之さん(関大非常勤講師)

大阪・花岡 中国人強制連行 国家賠償訴訟 結審！ 1月29日に判決



写真説明:

上:行進する原告と支援者
中:報告集会で丹羽弁護士
下:原告報告 張さん、韓さん

7/13(金)第14回(最終)口頭弁論が開かれた。弁護団による最終弁論と、中国から原告の張忠傑さん(大阪)と韓建国さん(花岡)が来日し最終陳述を行った。裁判長が結審を宣言し、来年1月29日の判決(11:00～大阪地裁大法廷)を宣言した。

口頭弁論後に、弁護士会館において2人の原告を迎えての「連帯集会」が開催され、約120人の支援者が参加した。

弁護団からの報告

弁護団からは、当日提出された「最終準備書面」の要旨が説明された。第1章:中国人強制連行、第2章:政府による戦後処理及び企業の対応、第3章:原告ら又はその父らに対する加害行為、第4章:強制連行及び強制労働にかかる違法性、第5章:請求権放棄の抗弁について、4人の弁護士から説明が行われた。2007年4月の訴求権を奪った「西松最高裁判決」による実質審議の打ち切りを阻止し、14回の口頭弁論を積み重ね、中国から3人もの原告を

招き、原告陳述を行い、実質審議を勝ち取ってきたことが報告された。

韓建国さん、張忠傑さんの陳述

韓建国原告は日中国交回復40年の今、強制連行問題に正しい解決を図ることの重要性を訴えた。花岡に動員された968人のうち419人の命が1年で奪われたことなどを指摘し、正義と公正な判決を要請した。

張忠傑原告は、4000人以上の大阪地域への強制連行者の調査の中で、安治川や川口、藤永田など作業場での実態、そして被害者の家族の悲惨な状態は日本政府と加害企業の責任であることを指摘した。そして裁判所には公正な判断を要請した。

来年の判決、そして引き続き闘い

裁判を通じて事実を調査し資料を残していく。そして花岡・大阪での強制連行の当事者性を作り出し、裁判が報道されることで多くの人々に事実を知らすことが出来た。今後とも裁判闘争を通じて強制連行の実態を明らかにして、戦争責任を追及して行こう。